

## ハムログ出力CSVファイルの条件

このツールは、ハムログに記述されているRemarksの内容を判断して、SOTA—DB用のアップロードファイルを作成するものです。私のハムログの使い方に合わせているので同じような使い方をしている人はそのまま使えると思います。ハムログにすでに登録すみのデータはこの条件にあわないことがあるので、もしこのツールを使う場合は、投入データを本ツール用にするか、本ツールの修正で対処して下さい。

ハムログの投入データの中の、remarks1または、Remarks2にSOTAの移動コード(JA「〇ー9」/AA-NNN)が記入されているレコードを処理の対象としています。 どのRemarks欄に記入してあるかは、指定することになるので、一度に読み込むファイルの中では、いずれかに統一されていること。

例) Remarks2 の記入例

南房総市 御殿山から SOTA:JA/CB-005	#処理対象
長野県諏訪郡富士見町 権現岳山頂直下より JA/YN-009	#処理対象
神奈川県秦野市 塔ノ岳山頂より	#対象外

SOTAのコード(SOTA:Jxx/AA-NNN)は、半角大文字であること。 間違ったコード(支部+リージョンコード)が書かれているレコードは処理対象外となります。

Remarks1,2の記述内容により処理対象のレコードかを区別しているので、ハムログの出力ファイルにSOTA以外のレコードが混在していてもOKです。まとめて、複数の移動運用に対応し、日付別に複数のファイルを作成しますので、ハムログのCSVファイルが移動と自宅の運用が混在していてもOKです。

移動地の数字(JA1???/n) であるnは、Remarksにかかれていた支部コードとリージョンコードにより自動判断して付与しています。 このために、定義ファイルを作成してあります。 移動地数値は、SOTAの移動エリアを使用しているため、複数県にまたがる場合はSOTAドキュメントでの数値を採用しています。

## 出力ファイル仕様

ファイルはSOTAコードと日付で分割しフィル内のレコードは時間順にソートし、ファイル名を自動付与します。拡張子は、「.csv」です。なお、日付はJSTで書かれているレコードは、UTCに自動変換します。(レコード単位)

ファイル名付与基準

YYMM\_MM\_DD\_支部コード／リージョンコードー山岳番号.CSV

例) 2016\_01\_02\_JA/CB-006.csv

レコード内容はSOTA データベースの規約に準じて作成

## 作成後の指定ソフトによる内容確認

実行中は、出力イメージのデータを画面表示し、全データ処理後に作成したファイル名とそのレコード数を一覧で表示し、ファイルの内容を指定したソフトで表示します。 デフォルトで、Windows添付の「メモ帳」が動作して、ファイルを順次開きます。

# 手順

## 1. 作業用フォルダを作成しておく

作製した作業用フォルダに、ダウンロードした「sota.rb」、「regions\_code.csv」および、変換元のハムログ出力のCSVファイルを保存しておく

## 2. 実行する前に、スクリプトを自分用に編集してください。

- ・sota.rbを適当なエディタで開く

- ・下記の MyCall = の“ ” で括られた位置に自分のSOTA用ID(コールサイン)を入力して、上書き保存する  
44行目

\* こんな操作をしないと動作させられないことが、マニアック的で一般的でないところですが、自分専用のツールとして、1回だけの作業です。

DOSレベルでの実行になるので、なれないと余計に面倒ですがトライしてみてください。

## Sota.rb の内容

```
#-----  
MyCall = "J?1ABC"           #自分のSOTA登録IDに変更すること  
ExtPrg = "notepad.exe"      #ファイルの内容を表示するソフト名 最後は半角の空白  
#-----  
  
require 'open3'
```

## 3. Ruby のダウンロードとインストール（Rubyをインストールしていない場合）

RubyがあるURL

<http://rubyinstaller.org/downloads/>

Rubyinstalls の

ruby2.2.3

をクリックしてダウンロード

ダウンロードしたファイルを実行してインストール

インストール時に

インストール先、

☐ Tcl/Tkサポートのインストールする

☐ Rubyの実行ファイルへ環境変数PATHを設定する

☐ .rbと. rbwをRubyに関連づける

が表示されたら

☒ Rubyの実行ファイルへ環境変数PATHを設定する

☒ .rbと. rbwをRubyに関連づける

をチェックする。

## コマンドプロンプトにして、実行中の画面

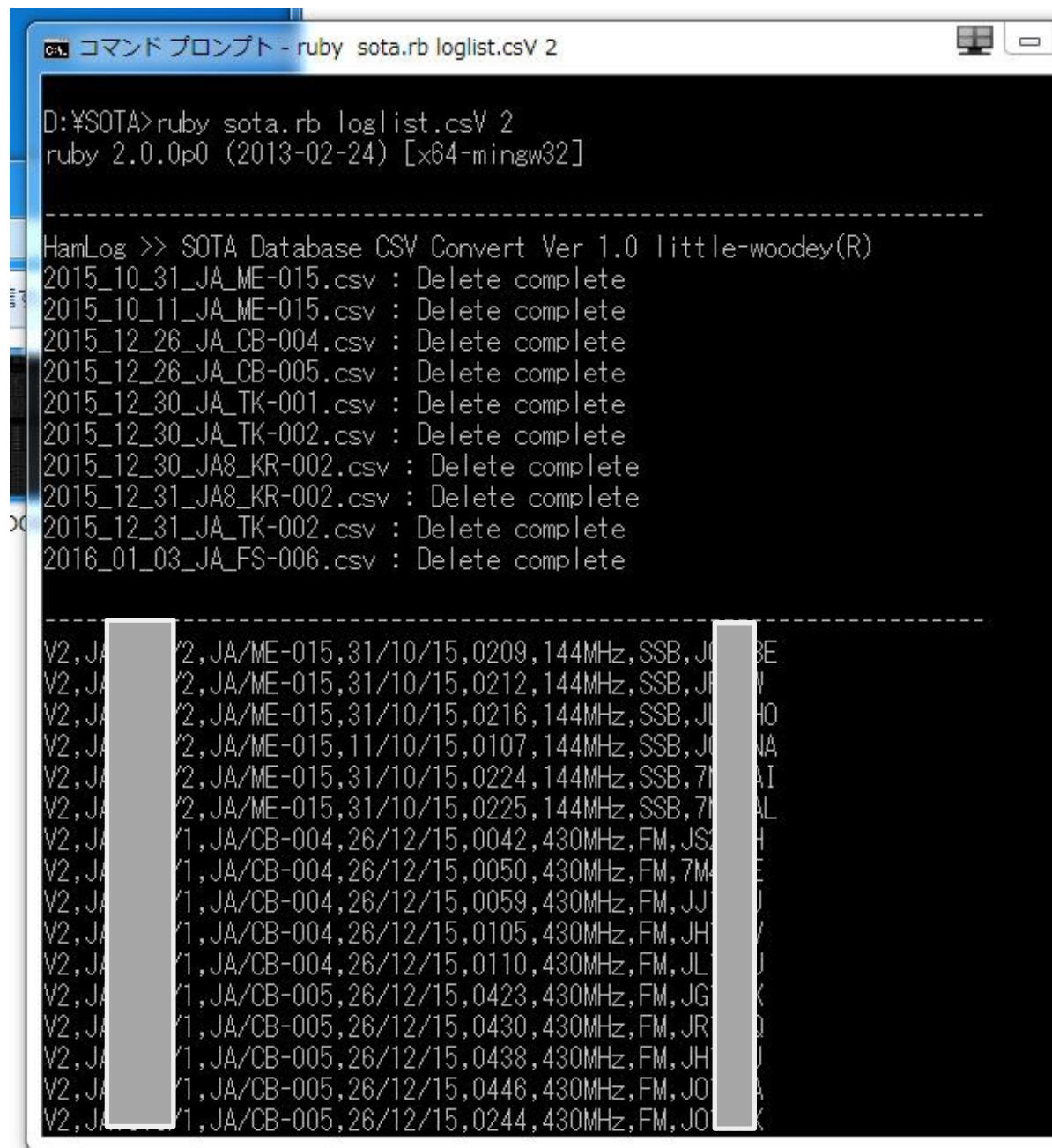
例) ruby sota.rb loglist.csv 2

ruby :スクリプト処理ソフト名

sota.rb:スクリプトファイル名

loglist.csv:ハムログ出力のCSVファイル

2 : ハムログのSOTAコードが書かれているRemarks欄の数値 1または2  
省略すると[2] を指定したことになる 半角の数字



```

C:\> ruby sota.rb loglist.csv 2
D:\SOTA>ruby sota.rb loglist.csv 2
ruby 2.0.0p0 (2013-02-24) [x64-mingw32]

-----
HamLog >> SOTA Database CSV Convert Ver 1.0 little-woodey(R)
2015_10_31_JA_ME-015.csv : Delete complete
2015_10_11_JA_ME-015.csv : Delete complete
2015_12_26_JA_CB-004.csv : Delete complete
2015_12_26_JA_CB-005.csv : Delete complete
2015_12_30_JA_TK-001.csv : Delete complete
2015_12_30_JA_TK-002.csv : Delete complete
2015_12_30_JA8_KR-002.csv : Delete complete
2015_12_31_JA8_KR-002.csv : Delete complete
2015_12_31_JA_TK-002.csv : Delete complete
2016_01_03_JA_FS-006.csv : Delete complete

-----
V2,JA,ME-015,31/10/15,0209,144MHz,SSB,JE,ME
V2,JA,ME-015,31/10/15,0212,144MHz,SSB,JE,ME
V2,JA,ME-015,31/10/15,0216,144MHz,SSB,JE,ME
V2,JA,ME-015,11/10/15,0107,144MHz,SSB,JE,ME
V2,JA,ME-015,31/10/15,0224,144MHz,SSB,7M,ME
V2,JA,ME-015,31/10/15,0225,144MHz,SSB,7M,ME
V2,JA,CB-004,26/12/15,0042,430MHz,FM,JS,ME
V2,JA,CB-004,26/12/15,0050,430MHz,FM,7M,ME
V2,JA,CB-004,26/12/15,0059,430MHz,FM,JJ,ME
V2,JA,CB-004,26/12/15,0105,430MHz,FM,JH,ME
V2,JA,CB-004,26/12/15,0110,430MHz,FM,JI,ME
V2,JA,CB-005,26/12/15,0423,430MHz,FM,JG,ME
V2,JA,CB-005,26/12/15,0430,430MHz,FM,JR,ME
V2,JA,CB-005,26/12/15,0438,430MHz,FM,JH,ME
V2,JA,CB-005,26/12/15,0446,430MHz,FM,JO,ME
V2,JA,CB-005,26/12/15,0244,430MHz,FM,JO,ME

```

作製済の同名のファイルがあるときはファイルを削除のMsgを表示  
作製しているレコードを画面に表示しています。

ファイル作成後、作製したファイル名とそのレコード数を一覧で表示して、デフォルトで「メモ帳」を起動して作成したファイルの内容を表示・編集できるようにしています。

